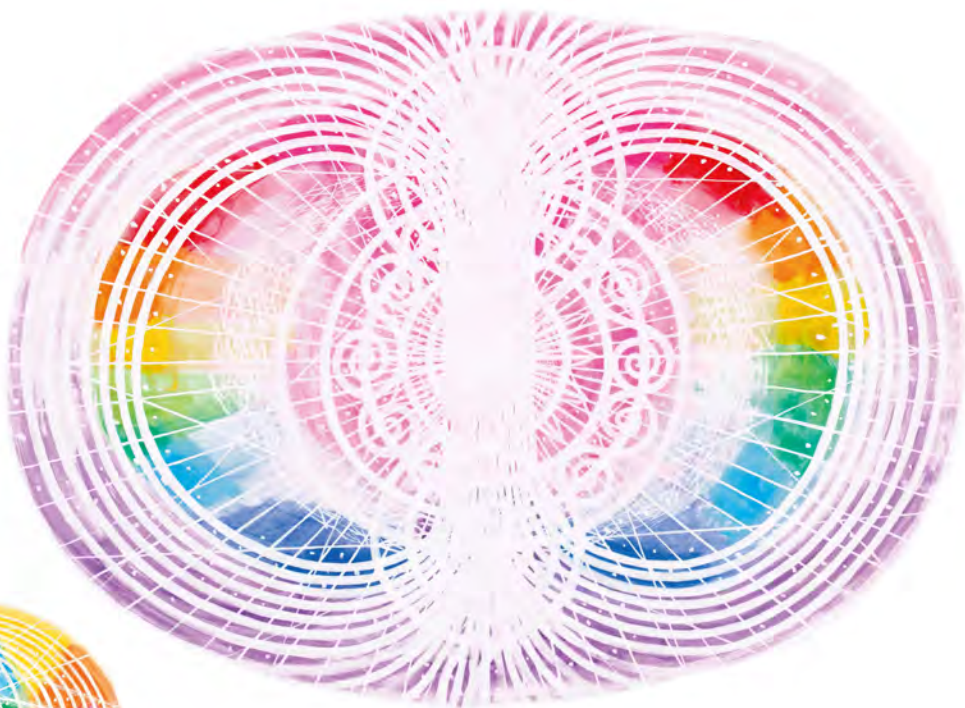


ライトボディ

「ドラングァロ・メルキゼデクが説いた神聖幾何学（宇宙や生命の法則を示すとされる幾何学模様）のトラス構造から着想を得ました」（水口さん）。神々しく強力な光のエネルギーを感じる作品



ライトボディⅡ

「『ライトボディ』のもう1つのバージョンです」（水口さん）



それから奈良県を経て宮崎県に移り住み、宇宙曼荼羅のような絵や、阿比留草文字のようなものをアートにしてみようかな、と思って制作した作品が、今のエネルギーアートの原型になっています。

ニューヨーク滞在中に ホビ族の村へ向かった

私は日頃、「みんなが魂を輝かせて、喜びにあふれて生きてほしい。地球上のすべての存在が幸せになってほしい、そのために手助けできることをしたい」と思っています。

これは、もともと持っていた思いなのですが、阪神・淡路大震災の2年後に、ネイティブアメリカンのホビ族と触れ合ったことで、より純粋化しました。

グループ展がきっかけでニューヨークに6ヶ月滞在したのですが、『ホビ』宇宙からの聖書―神・人・宗教の原点 アメリカ大陸最古のインディアン（徳間書店）という本に深い感銘を受けていた私は、この機会に、アリゾナ州にあるホビの村に行きました。

ホビ族は、カチーナという精霊を信仰しており、儀式ではカチーナに紛してダンスを踊ります。雨を降らせるために、トウモロコシを持って踊るコーンダンスがあり、それでも雨が降らないときは、蛇をくわえてスネークダンスを踊ります。

ホビの人たちはゆつたりとしたシンプルなりズムに乗せて、低い声で歌い続けます。これは、静かに延々と続く祈りであり、地軸を整えて、地球上の生命に恩恵をもたらそうとしているのだそうです。

心から感じられた 地球のいとおしさ

最寄りの空港からホビの村までは公共交通機関がないため、ヒッチハイクをしました。村で出会った人の家や、その親戚の家に泊めてもらうことができ、村にしばらく滞在することができました。

ホビの村は、メサと呼ばれる高台にあり、岩場に一日いて、下に広がる大地を眺めていると、ホビの精霊が入ってきたのか、心から「地球がいと美しい」と感じました。